

## 蜘蛛退治 〈くもたいじ〉 (多紀町)

むかし、むかし、丹波〈たんば〉の市野々〈いちのの〉という所に、大きな穴があって、そこに土蜘蛛〈つちぐも〉が住んでいました。毎日、里に出ては人を苦しめるので、薬師〈やくし〉さんが退治に行かれました。

だんだん追われた土蜘蛛は、西へ西へと味間〈あじま〉の方へ逃げて行きましたが、氷上〈ひかみ〉郡の阿草〈あくさ〉という所で、足に矢が当たって動けなくなりましたので、それから薬師さんは、播磨〈はりま〉の国に行かれたということです。

今も市野々の巖〈いわお〉八幡神社の境内〈けいだい〉に、土蜘蛛が住んでいたという大きな洞穴〈どうけつ〉（むかし、鉾石を掘り出した穴のようです）があります。

村の名前も大芋〈おくも〉村といい、流れている川を、今でも、大蜘蛛川〈おおくもがわ〉と呼んでいます。